

美と感動に出会う美術館

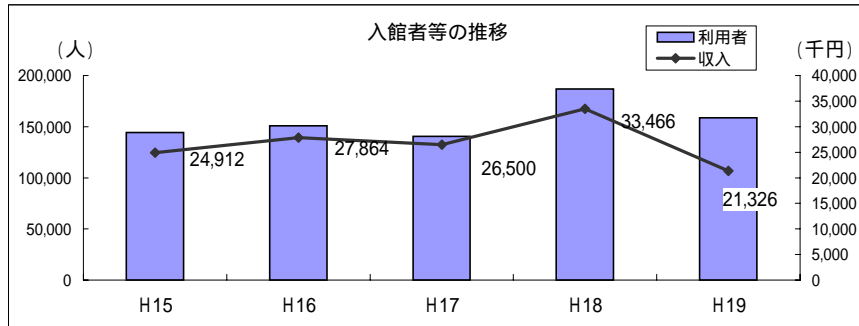
所在地	福井市文京3丁目16-1		
設置年月日	昭和52年10月1日		
施設の種類	美術館	施設管理主体	県
設置の目的	美術に関する県民の知識および教養の向上を図り、もって県民の文化の発展に寄与する。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造、地上2階、地下1階、延6,627㎡ 駐車場127台、常設展示室、貸展示室、研修室、会議室、講堂		
職員数	正職員8人、非常勤嘱託2人、事務補助1人、アルバイト4人 計15人		

利用状況等

	H15	H16	H17	H18	H19
利用者数(人)	144,163	150,817	140,418	186,928	158,740
収入(千円)	24,912	27,864	26,500	33,466	21,326

利用者負担(利用料金)等

観覧料 使用料	常設展	100円
	企画展	美術館HP参照
	展示室等	美術館HP参照



利用状況 の推移	平成16年度は企画展、貸館がやや減少したもののテーマ展の入場者が約3倍増となり、前年度比4.6%増となりました。
	平成17年度は企画展、貸館はほぼ横ばいで推移したものの、テーマ展の入場者が半減し前年度比6.9%減となりました。
	平成18年度は企画展で「水木しげる」共催展で「黒澤明」などの開催により一般入場者が大幅に増加し、前年度比33%増となりました。
	平成19年度は貸館が増加したものの、共催展の開催がなかったことや企画展の入場者が前年並みに戻ったため、前年度比15%減となりました。

施設の特徴

展示会の開催

- ・収蔵品を中心にテーマを決め、年間を通して常設展示室でテーマ展を開催しています。
- ・美術館独自の調査・研究による企画展(特別展覧会)を年に4回程度開催しています。
- ・県内各地域で美術鑑賞の機会を提供する移動美術館を年に3回開催しています。
- ・他の機関、事業者と共同で開催する共催展を開催しています。
- ・館蔵品を県内各学校や公共施設等で展示、解説するふれあいミュージアム事業を開催しています。

教育普及活動

- ・作品制作の初歩的な基礎を学ぶ日本画、洋画、彫刻の各基礎講座を開催しています。
- ・作品制作の経験があり、さらに専門的に学ぼうとする者を対象とした日本画、洋画、彫刻の各専門講座を開催しています。
- ・各企画展で講演会やワークショップ、ギャラリートークなどを開催しています。

施設・設備の提供

- ・創作グループ等の創作、研究活動の場として研修室を提供しています。
- ・創作グループ等の発表の場として展示室を提供しています。

収集活動

- ・福井の風土と歴史から生まれた美術資料および福井にゆかりのあるすぐれた美術資料の収集と保存を行っています。
- ・国の内外、時代を問わず、すぐれた美術資料の収集と保存を行っています。

調査・研究

- ・美術資料に関する学術的な調査・研究や保存、展示に関する技術的な研究を行っています。
- ・美術資料に関する解説書、図録、研究報告書などを刊行しています。

県立美術館ホームページ

<http://info.pref.fukui.jp/bunka/bijutukan/bunka1.html>

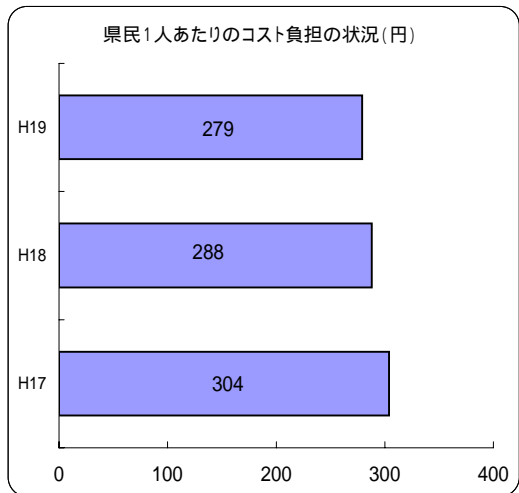
平成19年度の特徴について

事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品によるテーマ展(常設展)を年間8回開催し、15,980人が来館しました。 ・企画展(特別展覧会)を年間5回開催し、19,294人が来館しました。 <ul style="list-style-type: none"> 「館蔵名品展(前期)」(3,875千円) 4/5~5/20 1,483人(34人/日) 「館蔵名品展(後期)」(2,297千円) 8/3~8/26 4,041人(168人/日) 「あそびにおいでよ!動物ファンタジーへ」(8,974千円) 8/3~8/26 4,100人(171人/日) 「華麗なるアール・ヌーボー、アール・デコの世界」(15,132千円) 10/5~11/4 6,550人(226人/日) 「海を越えてきたみほとけたち展」(8,887千円) 2/29~3/23 3,120人(142人/日) ・すぐれた美術作品を鑑賞する機会が少ない嶺南地域で、移動美術館を年間3回開催しました。(小浜展 2回 8/4~8/15、3/5~3/9 敦賀展 1回 9/8~9/21) ・ふれあいミュージアムを県内各学校で計13回開催しました。 ・美術館の展示室を利用した、美術愛好家や各種団体が主催する展覧会が年間100回開催され、106,689人が来館しました。 ・日本画、洋画、彫刻の3部門で、実技講座の基礎講座各10回、専門講座各25回開催し、89人が受講しました。
------	--

福井県立美術館(2/2)

行政コスト計算書(平成19年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	94,020	41.3%	104.2%
	退職給与引当金繰入	96	0.0%	18.5%
	計	93,924	41.3%	103.5%
物にかかるコスト	物件費	86,184	37.9%	97.1%
	維持補修費	4,780	2.1%	33.3%
	減価償却費	38,112	16.7%	100.0%
	計	129,076	56.7%	91.4%
その他	公債費(利子)	0	0.0%	0.0%
	その他	4,557	2.0%	133.7%
	計	4,557	2.0%	133.7%
合計		227,557	100.0%	96.7%
収入	利用料等収入	19,366	8.5%	68.6%
	その他収入	3,140	1.4%	48.9%
	一般財源	205,051	90.1%	102.2%

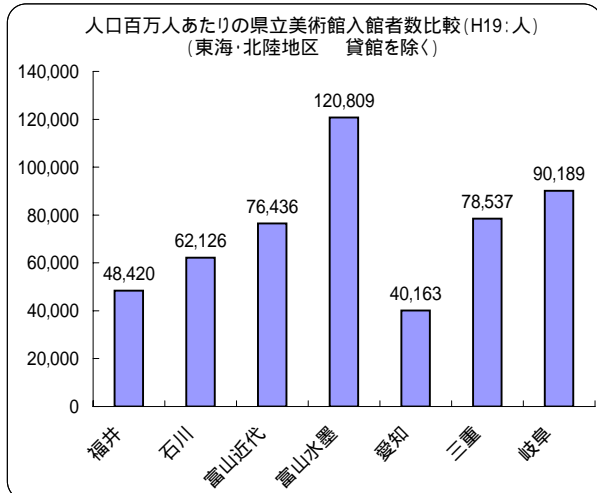


バランスシート(平成20年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	5,116,667	99.4%	固定負債	63,544	99.8%
うち土地	562,080	100.0%	うち退職手当引当金	63,544	99.8%
うち建物	893,972	96.1%			
うち美術品	3,583,380	100.2%			
投資等	0	-	流動負債	0	-
流動資産	0	-	正味資産	5,053,123	99.4%
計	5,116,667	99.4%	計	5,116,667	99.4%

主な指標 (単位: %、円/人)

	H18	H19	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	6,290	6,275	100.2%
県民1人あたり将来負担額	78	78	100.0%
世代間負担率	98.8	98.8	100.0%



バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>行政コスト計算書の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物件費は、全科目で節約に努めた結果、前年度比97.1%の減額となりました。 ・維持補修費は、大規模な修繕がなかったことから前年度比33.3%と大幅な減額となりました。 ・利用料等収入は、企画展を4回開催したうち1回を開催30周年記念として館蔵名品展を開催しましたが、観覧料はテーマ展と同じ100円としたため前年度比68.6%と大幅な減額となりました。 ・その他収入は、マスコミ等と実行委員会を設立して開催する場合、その収入はその他収入として計上されますが、昨年度は実績がなかったため、前年度比48.9%と大幅な減額となりました。 <p>バランスシートの分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産のうち、開館以来収集した916点の美術品が全体の7割を占めています。また、このうち約3割が岡倉天心ゆかりの作品となっています。
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>管理部門：</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の維持管理、美術資料の保管と管理 【H20予算額：約73百万円】 博物館情報システム運営事業 ... 収蔵品の管理システムの導入と運営 【H20予算額：約7百万円】 <p>事業部門：</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査研究事業 ... 美術資料の調査研究と購入 【H20予算額：約42百万円】 企画展開催事業 ... 企画展(4回程度)、移動美術館の開催(3回) 【H20予算額：約33百万円】 教育普及事業 ... 講座、ワークショップ等の開催 【H20予算額約4百万円】
今後の課題	<p>新規入館者の開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常連の入館者は多いが、総入館者は企画展の入館者数により増減しています。 <p>施設の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和52年の開館以来30年が経ち、施設が老朽化してきています。また、美術愛好グループ等の増加により、展示スペースが手狭化してきています。
今後の事業方針、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで岡倉天心が率いた日本美術院の画家たちの作品の収集に力を入れてきており、現在この分野のコレクションでは全国的に著名となっています。今後は、更に収集の範囲を広げるとともに、これまで以上に美術品の寄贈や寄託を増やし、県民の多様なニーズに応え積極的に展示していきます。 ・新規入館者の開拓やより親しまれる美術館をめざし、県民の多様なニーズに応えるため、様々な分野の企画展の開催に取り組んでいきます。 ・子供が美術に親しむ機会を増やすため、近年、ふれあいミュージアム事業の開催や、夏休み期間のこども向け展覧会の開催に取り組んできました。今後もこれらの事業の開催を通して、子供が美術に親しむ機会を増やすよう努めていきます。